

特定非営利活動法人 立野福祉会

障がい者就労トレーニングファーム チャレンジド立野
(新潟県佐渡市)

～ 農業と福祉の連携による地域振興 ～



採種カンラン(キャベツ)管理作業



アートサロン「和(やわらぎ)」に飾られている障がい者の描いた絵



新潟県農福連携マルシェ2018

経緯

- 地域の高齢化による労働力不足の解決に向けて、障がい者との連携が必要と考え、現在は「障がい者就労トレーニングファーム チャレンジド立野(就農継続支援B型事業所)」を運営し、佐渡市内の障がい者が利用している。
- 「チャレンジド」とは、アメリカの言葉で「障がいを持つ人」を表し、「挑戦という使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人」という意味を持ち、前向きな言葉を施設名とした。



取組

- 冬場の農作業確保のため、県の補助を活用し農業ハウス等を整備。また、周辺農家へも農作業に出掛け、収入の向上を図っている。
- 現在の経営面積は約3ha。米(コシヒカリ)・カンラン(キャベツ)・ニンニク等を生産。自然栽培にも取り組んでいる。
- 地域の労働力不足に対応し、水路の維持管理、古紙回収や高齢者宅の除雪ボランティアも行っている。
- 国の農山漁村振興交付金を活用し、古民家を改修したカフェ「アートサロン「和(やわらぎ)」」を平成30年8月にオープン。カフェには障がい者が描いた絵を展示し、自ら栽培した農産物を使った料理を提供。市内の福祉事業所の工芸品等も展示・販売している。
- 米粉を利用した菓子「ビスコッティ」や「あんぽ柿」等を加工・販売し、6次産業化にも取り組んでいる。



今後の展望と課題

- 『挑戦する』気持ちを大事にし、「お互いさま」の精神で地域と共に成長したい。
- 更なる6次産業化を目指し、農産物加工施設の増設を検討している。
- 障がい者の農作業を推進するには、休憩所の整備が必要。
- アートサロン「和」を通じ、農福連携の情報発信にも取り組みたい。